

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 35 週 2026 年 8 月 24 日 ~ 8 月 30 日

今週のコメント

南丹保健所管内では、

手足口病が警報レベル解除となりました。

インフルエンザが流行期入りしています。

2026 年第 35 週の報告です。

○感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 1.5(前週 3.5)、京都府 3.61(前週 3.92)となっています。

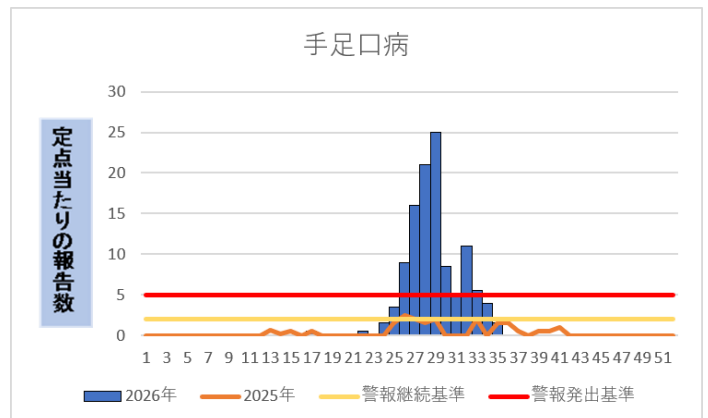
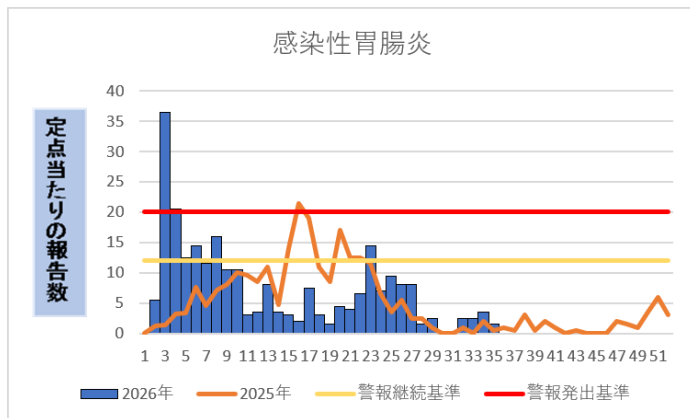
○手足口病定点あたりの報告数は、南丹 1.5(前週 4)、京都府 0.71(前週 0.97)となっています。

○インフルエンザの定点あたり報告数は、南丹 1(前週 1.5)、京都府 2.26(前週 0.97)となっています。

○A群溶結性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 1(前週 0)、京都府 1.29(前週 0.97)となっています。

○突発性発しんの定点あたり報告数は、南丹 1(前週 0)、京都府 0.42(前週 0.14)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

感染性胃腸炎とは…

ウイルスや細菌が原因で嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす病気です。特に、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性胃腸炎が多く見られます。

感染を防ぐためには、食事の前やトイレの後などこまめな手洗いをするのが大切です。食品の十分な加熱(85 度～90 度で 90 秒以上)や調理器具の衛生管理も重要です。どちらのウイルスもアルコール消毒の効果は薄いとされていますので、家庭内で感染者が出た場合、嘔吐物や便の処理は手袋やマスクを着用し、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用漂白剤)で消毒してください。感染した際は水分補給をこまめに行い、脱水を防ぎましょう。

ウイルス性胃腸炎の場合は特異的な治療法はなく、症状に応じて整腸剤や制吐剤、水分補給目的の点滴などの対処療法がおこなわれます。特に乳幼児や高齢者では脱水症が懸念されますので、飲んでも吐いてしまうなどの状態が続く場合は早めに医療機関を受診してください。

ノロウイルスについてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

[これだけは知っておきたいノロウイルス感染症の知識\(京都府\)](#)

[感染性胃腸炎\(特にノロウイルス\)について\(厚生労働省\)](#)

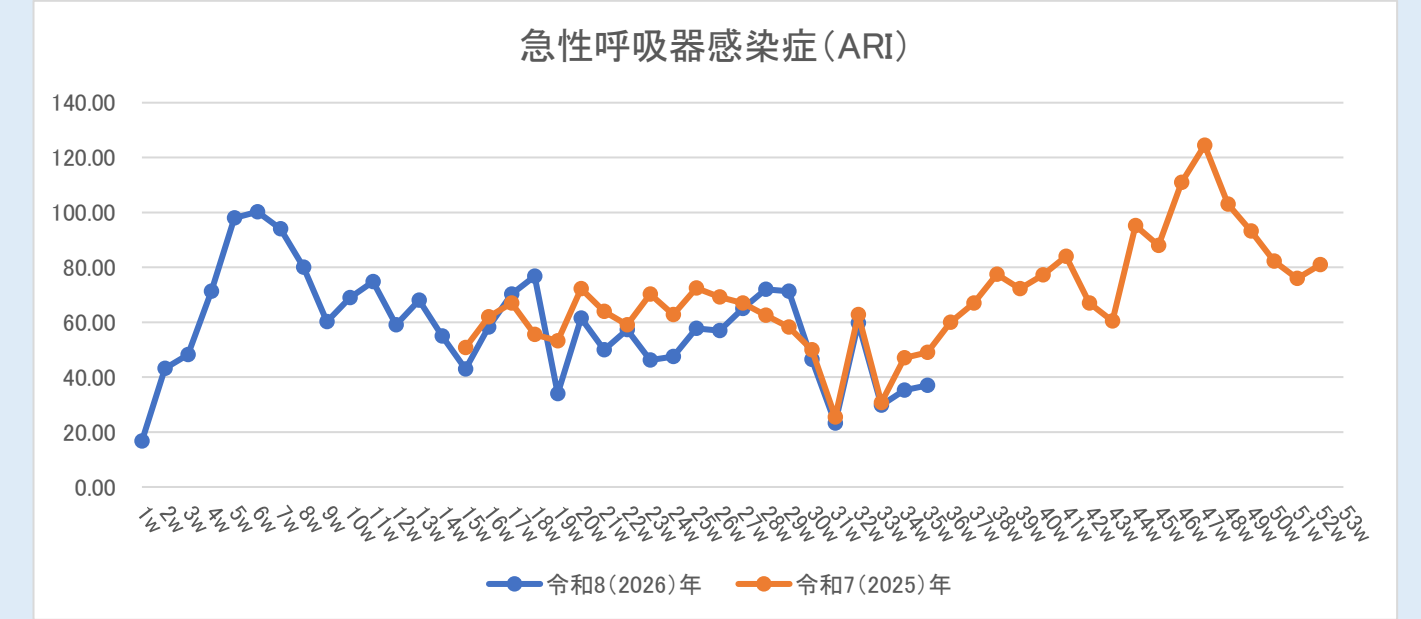
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.35w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	1.00	↘	1.50
新型コロナウイルス感染症				0.75	→	0.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	↗	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.00	↗	0.00
感染性胃腸炎	20	12		1.50	↘	3.50
水痘	2	1	1	0.50	↗	0.00
手足口病	5	2		1.50	↘	4.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				1.00	↗	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	↘	1.50
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第 35 週報告数は 148 件(定点当たりの報告数 37.00)でした。 [京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)